

中央電気倶楽部月報

◎定時総会報告
「第百九回定時総会議事報告」

◎午さん会講演録
『激動する世界情勢を読む』

／桃山学院大学 法学部 教授 松村 昌廣 氏

2023
3
Vol.849

中央電気倶楽部月報

令和五年三月一日発行 一般社団法人 中央電気倶楽部 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目十五 電話〇六―六三四五―六三五(代) FAX〇六―六三四五―六八七七

倶楽部からのご案内

～今回の倶楽部ならではの～

- ◎一般には公開していない施設を見学
 - ①関西電力送配電(株)中央給電指令所
 - ・電力供給網の心臓部
 - ・最新の電力需給逼迫によりその役割がクローズアップ
 - ②(株)ハイドロエッジ水素製造プラント
 - ・エネルギーとして利用する際もCO₂を出さない脱炭素社会への切り札として期待される水素の製造現場
- ◎ランチ (カルトブランシュ)
 - ・白いバラのシャンデリアがお迎えするフレンチレストランメニューには載っていない特別なコース料理をご提供
- ◎堺伝匠館
 - ・世界に誇る包丁などの展示を専属ガイドがご案内
 - ・刃物づくりの工程ごとの素材でできたシャンデリアは見応えあり

春の電気施設関係見学会は、電気、水素等生活に深く関わりのある物を扱う施設を見学いたします。

午前中は、関西電力送配電(株)中央給電指令所を見学。電気の流れを監視し、制御する指令所をご案内いたします。

ランチは、本町にあるフランス料理店「カルトブランシュ」で、フレンチのプチコースをお楽しみ下さい。

午後からは、堺方面に移動し、(株)ハイドロエッジにて水素製造プラントを見学いたします。

その後、堺伝匠館にて刃物をはじめとする堺の伝統工芸について学んでいただきます。

お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

春の電気施設関係見学会のご案内

開催日

令和五年四月二十六日(水)〔雨天決行〕

集合 八時四十五分 中央電気倶楽部一階 ロビー

行程 アロフト大阪堂島(旧堂島ホテル前)：関西電力送配電(株) 中央

給電指令所(見学)：カルトブランシュ(昼食)：(株)ハイドロエッジ(見学)：堺伝匠館(見学お土産：ア

ロフト堂島前と大阪駅(十七時頃帰着予定)

定員 二〇名(同伴歓迎)先着順とします。

会費 会員(ご家族含む) 一、〇〇〇円

会員外 一五、〇〇〇円

(会費は当日ご持参下さい。)

申込み 四月十九日(水)までにTELまたは

FAXで倶楽部事務局(更谷)までお申し込み下さい。

TEL 〇六―六三四五―六三五六(直通)

FAX 〇六―六三四五―六八七七

※開催日の前々日以降は、会費の半額をキャンセル料として申し受けます。

食堂よりお知らせ

期間限定メニュー(三月から) VOL.2

「幸(ゆき)えび」と

春野菜のペペロンチーノ

安全安心の美味しい国産エビを使った、春一番のパスタをぜひご賞味ください。

「幸えび」とは

関西電力の子会社「海幸ゆきのや」が国内で養殖し、サステイナブルなシステムで育てたエビです。



サラダ・パン・コーヒー付き ¥2,000(税込)

※三階食堂にてご予約承ります。
二日前までにご予約願います。
食堂の混雑状況により、ご予約できない事がございます。



「近代化産業遺産」プレート

目 次

3 月のスケジュール — 2
4 月の予定
新理事長紹介 — 4
定時総会議事報告-5~7
講演録 — 8~16
倶楽部だより — 17
同好会だより — 18~19
倶楽部からのご案内 — 20

創 立：大正3年11月
建物(本館)：昭和5年竣工
会 員 数：1,438名

法人指定会員
1,199名
個 人 会 員
239名
(R.5.2.未現在)

三月のスケジュール

一	水	電寿会(三二六号室) 絵画部(水彩画)(B一〇号室) 社交ダンス教室(B一〇号室) 十七時
二	木	電社会講演会(十一時・二二五号室)『幕末の日露交渉』
三	金	午さん会 講演『徳川家康 ゝわれ一人腹を切て、万人を助くべし』 国際日本文化研究センター 名誉教授 笠谷 和比古 氏
四	土	撞球部例会
五	日	青年会例会
六	月	
七	火	社交ダンス教室(B一〇号室) 十七時
八	水	
九	木	午さん会 講演『番付鳴動ゝ大阪場所の見所』 産経新聞社 東京本部 運動部 宝田 将志 氏
十	金	
十一	土	囲碁部例会
十二	日	
十三	月	
十四	火	
十五	水	社交ダンス教室(B一〇号室) 十七時
十六	木	午さん会 講演『少子化・子育て・日本の未来 ゝ孫持ち世代の意識の持ち方』 育児カウンセラー 一菜 ちかこ 氏
十七	金	
十八	土	いなづま句会(三二七号室) 初・中級者向け囲碁教室(十時・十二時・二〇五号室) 囲碁部指導日
十九	日	
二十	月	
二十一	火	春分の日
二十二	水	社交ダンス教室(B一〇号室) 十七時
二十三	木	理事会(十六時・十七時 二二四号室) ゴルフ部例会(茨木国際GC)
二十四	金	午さん会 休会 電気記念日祝賀会(五階大ホール) 将棋部例会(指導なし) 十三時
二十五	土	
二十六	日	
二十七	月	
二十八	火	
二十九	水	社交ダンス部例会(B一〇号室) 十七時
三十	木	
三十一	金	午さん会 講演『甲子園の審判は見たゝ奇跡の試合』 (有)オフィススキマ 代表取締役 元 高校野球審判、関西大学野球部主将 木嶋 一黄 氏

※予定変更の場合は改めて連絡いたします。

三月の午さん会講演

- ◎三月三日(金)
講演『徳川家康
ゝわれ一人腹を切て、万人を助くべし』
国際日本文化研究センター
名誉教授 笠谷 和比古 氏
- ◎三月十日(金)
講演『番付鳴動ゝ大阪場所の見所』
産経新聞社 東京本部 運動部
宝田 将志 氏
- ◎三月十七日(金)
講演『少子化・子育て・日本の未来
ゝ孫持ち世代の意識の持ち方』
育児カウンセラー 一菜 ちかこ 氏
- ◎三月二十四日(金) 休会
- ◎三月三十一日(金)
講演『甲子園の審判は見たゝ奇跡の試合』
(有)オフィススキマ 代表取締役
元 高校野球審判、関西大学野球部主将
木嶋 一黄 氏

四月の午さん会講演(予定)

- ◎四月七日(金)
講演『ウクライナの教訓
反戦平和主義(パシフィズム)が日本を滅ぼす』
アゴラ研究所 フェロー
東海大学海洋学部 非常勤講師
公益財団法人 国家基本問題研究所
客員研究員 潮 匡人 氏
- ◎四月十四日(金)
講演『宮本武蔵 五輪書を読む
ゝ世界に通用するサムライのプリンシプル』
関西大学 国際部教授
アレキサンダー・ベネット 氏
- ◎四月二十一日(金)
講演『癒しのユーモア』
淀川キリスト教病院
名誉ホスピス長 相談役 柏木 哲夫 氏
- ◎四月二十八日(金)
講演『米中対立
アメリカの戦略転換と分断される世界』
東京大学 東洋文化研究所
准教授 佐橋 亮 氏

午さん講演会に
ご出席のおすすめ

毎週金曜日の午さん講演会は、下記の要領で開催いたしておりますので、多数ご出席ください。

出席資格：倶楽部会員およびご同伴の方、会員会社の社員の方

時 間：12時～13時40分頃
(講演12時40分～13時40分)

場 所：3 階大食堂

食 事 代：一人会員2,200円(税込)
非会員2,500円(税込)

予 約：不要

着 席：自由着席

- 第4号議案
令和五年度役員選任の件
- ・理事
十五名以上二十名以内
- ・監事
五名以内
- ・評議員
五十名以内
- 第3号議案
令和五年度事業計画ならびに
収支予算報告の件
- 第2号議案
令和四年度収支決算承認の件
(令和四年一月一日から
令和四年十二月三十一日まで)

- (1)庶務
- (2)事業概要
- (3)会員数(令和四年度末)
指定会員 一、二〇二名(三二八社)・個人会員 二三九名
計 一、四四一名
- 令和四年一月一日から
令和四年十二月三十一日まで

令和五年二月二十二日(水)午後一時から当倶楽部において、第一〇九回定時総会を開催、次の議案が原案どおり報告、可決承認されました。

本年度新役員は、それぞれ別記のとおり選任されましたのでご報告申し上げます。

第1号議案 令和四年度事業報告の件
(令和四年一月一日から

第二〇九回 定時総会議事報告

去る二月二十二日(水)、当倶楽部は第一〇九回定時総会において令和五年度の役員を選出し、定時総会後の理事会で互選の結果、京阪電気鉄道株式会社の加藤好文代表取締役会長を理事長に選任しました。同時に、昨年二月に理事長に就任された津賀一宏様は、任期満了により理事長を退任されました。なお、津賀一宏様は評議員として、引き続き当倶楽部の運営にご尽力いただきます。

昨年、新型コロナウイルス感染症流行の収束はなかなか見通せず、厳しい経営状況が続きましたが、そのような中、津賀前理事長は土地の一部売却や食堂事業の安定化といった大きな手立てを講じられ、また、五階ホールへの最新映像装置の導入や倶楽部ホームページの刷新など、会員サービスの向上や倶楽部の魅力向上に積極的に取り組まれました。

こういったご尽力により最近の倶楽部のご利用は右肩上がりに増加しており、当倶楽部創立一一〇周年を迎える令和五年度に向けての礎を築いていただきました。

ここに、津賀前理事長のご功績に深く感謝の意を表します。



津賀 前理事長



加藤 新理事長

正味財産増減計算書			
令和4年1月1日から令和4年12月31日まで			
科 目	金 額	科 目	金 額
円		円	
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部		減価償却費	9,646,526
(1) 経常収益		清掃衛生費	5,223,399
特定資産運用利益	29	委託料	20,939,407
受取会費	80,634,950	リース料	17,130,249
事業収益	(59,958,709)	行事会費	1,859,376
貸室料	57,368,450	図書費	5,066,627
(テナント)	(21,138,000)	国諸費	403,520
(一般)	(36,230,450)	雑費	44,600
食堂使用料	2,146,259	支払利息	8,775,191
駐車場	444,000	経常費用計	563,802
受取入金	145,000	当期経常増減額	205,917,989
受取国庫助成金	253,261		△56,743,108
受取寄付金振替額	702,831		
倶楽部使用料	1,027,100	2. 経常外増減の部	
雑収	6,453,001	(1) 経常外収益	
経常収益計	149,174,881	經常外収益計	395,787,918
(2) 経常費用		(2) 経常外費用	
役員報酬	6,300,000	経常外費用計	1
給料手当	51,530,119	当期経常外増減額	395,787,917
退職給付費用	2,885,530	当期一般正味財産増減額	339,044,809
福利厚生費	9,205,881	一般正味財産増減額	59,988,520
旅交通費	2,819,910	一般正味財産期首残高	399,033,329
火災保険料	288,540		
租税公課	23,388,381	II 指定正味財産増減の部	
水道料金	636,573	一般正味財産への振替額	△956,092
電力費	13,780,170	当期指定正味財産増減額	△956,092
印刷費	8,817,050	指定正味財産期首残高	16,545,793
通信費	1,823,637	指定正味財産期末残高	15,589,701
消耗品費	2,697,782		
修繕費	7,165,950	III 正味財産期末残高	414,623,030
地代	4,925,769		

貸借対照表			
令和4年12月31日現在			
借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
円		円	
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金	326,774,677	未払金	17,964,484
預金	14,300	リース債務	4,152,384
受取会費	2,906,976	前受会費	17,803,550
未収金	1,913,440	預り金	3,257,455
前払費用	212,504	1年内返済長期借入金	2,289,000
立替金	331,821,897	流動負債合計	45,466,873
2. 固定資産		2. 固定負債	
(1) 特定資産		長期リース債務	2,076,192
退職給付引当資産	12,872,500	敷金	3,724,800
特別修繕積立資産(預金)	51,657,656	退職給付引当金	12,872,500
特別修繕積立資産(建物)	16,933,791	長期借入金	47,011,000
特別修繕積立資産(什器備品)	188,138	固定負債合計	65,684,492
100周年記念事業寄付積立資産(預金)	4,677,698	負債合計	111,151,365
100周年記念事業寄付積立資産(建物)	8,243,534		
100周年記念事業寄付積立資産(機材)	574,785	III 正味財産の部	
100周年記念事業寄付積立資産(什器備品)	1,872,616	1. 指定正味財産	
利子補給助成金(預金)	221,068	国庫助成金	221,068
社会貢献活動資産(預金)	444,049	受取寄付金	15,368,633
特定資産合計	97,685,835	指定正味財産合計	15,589,701
(2) その他の固定資産		(うち特定資産への充当額)	(15,589,701)
土地	25,316,021	2. 一般正味財産	399,033,329
建物	48,308,056	(うち特定資産への充当額)	(69,223,634)
什器備品	6,670,730	正味財産合計	414,623,030
敷金	9,743,280		
リース資産	6,228,576		
その他の固定資産合計	96,266,663		
固定資産合計	193,952,498	負債及び正味財産合計	525,774,395
資産合計	525,774,395		

令和五年

「電気記念日祝賀会」のご案内

日 時 令和五年三月二十四日(金)
会 場 十五時〜十六時四十分
中央電気倶楽部 五階大ホール

式 典 十五時〜十五時三十分

来賓祝辞 近畿経済産業局長殿
関西電力株式会社社長殿
アーク灯・白熱灯
(竹フィラメント電球) 点灯式

表彰 傘寿功労者に感謝状贈呈

一、記念講演 十五時四十分〜十六時四十分
演 題 「グローバルモビリティの
トレンドと将来像(仮)」
講 師 EYストラテジー・アンド・
コンサルティング株式会社
早瀬 慶氏

※対象者には招待状または案内状をお送りします。
※電気記念日祝賀会のため、三月二十四日(金)は
終日、囲碁・将棋室・撞球室・インドアー練習場はご
利用できませんのでご了承下さい。
※詳細につきましては、日本電気協会関西支部
事務局までお問合せ下さい。

令和五年度役員（敬称略・順不同）

監事（四名）

理事（十九名）

理事長（代表理事）

加藤好文（京阪電気鉄道）

常務理事（代表理事）

疋田孝純（関西電力）

理事

大川博己（関西電力送配電）

宮本信之（関西電力）

藤崎光太郎（住友電気工業）

中村忠（パナニックホールディングス）

生駒昌夫（きんでん）

中井誠（近畿日本鉄道）

豆崎新治（阪神電気鉄道）

新階寛仁（南海電気鉄道）

小原一泰（阪急電鉄）

三条寛和（三菱電機）

松原達哉（古河電気工業）

前田一樹（富士電機）

堀内浩祐（日立製作所）

林広道（東芝）

竹下裕二（関電不動産開発）

伊貝武臣（個人会員）

川越英二（個人会員）

評議員（四十七名）

西澤伸浩（関西電力）

加茂和夫（ダイヘン）

野田正信（かんてんエンジニアリング）

山地進（関西電気保安協会）

森本孝（関西電力）

森望（関西電力）

稲田浩二（関西電力）

松本正義（住友電気工業）

中田将稔（住友電気工業）

津賀一宏（パナニックホールディングス）

長榮周作（パナニックホールディングス）

上坂隆勇（きんでん）

伊崎幸治（きんでん）

和田林道宜（近畿日本鉄道）

都司尚（近畿日本鉄道）

藤原崇起（阪神電気鉄道）

秦雅夫（阪神電気鉄道）

遠北光彦（南海電気鉄道）

芦辺直人（南海電気鉄道）

角和夫（阪急電鉄）

嶋田泰夫（阪急電鉄）

平川良浩（京阪電気鉄道）

岩尾伸（京阪電気鉄道）

新家吉裕（三菱電機）

増田雅人（古河電気工業）

岡西良仁（富士電機）

筒井亮太（日立製作所）

河野弘幸（東芝）

廣江譲（関電プラント）

坂崎全男（住友電設）

時政幸雄（関電サービス）

大植康司（関電L&A）

竹内良治（仲和エンジニアリング）

村田俊彦（大林組）

下村匡（関電システムズ）

幸島宏（関電パワーテック）

岡田雅彦（エネゲート）

片岡正憲（日本ネットワークサポート）

竹中統一（竹中工務店）

横井正温（栗原工業）

布山尚伸（立花エレテック）

北野昌平（ダイダン）

大石富彦（KANSOテクノス）

名部正彦（オプテージ）

岡本耕一（南斗産業）

川崎幸男（関電エネルギーリサーチ）

田尻哲也（ダイヘン）

猪谷勇三（猪谷工務店）

中尾佳世子（個人会員）

梶井孝泉（個人会員）

令和五年度委員会・グループ懇話会・同好会委員（敬称略五十音順）

【常設委員会】

文化・集会委員会 委員（五名）

（長）中田 恭二（個人会員）

上 敏郎（日本電通）

梶井 孝泉（個人会員）

野上 勝也（個人会員）

水谷 敦史（日本電気協会関西支部）

食堂委員会 委員（四名）

（長）奥谷 幸司（オクタニサーモス）

中尾佳世子（個人会員）

南條 正幸（関西鉄道協会）

山下 哲也（日本電機工業会）

図書委員会 委員（四名）

（長）越智 克司（個人会員）

大田垣文雄（関西電気工事士会）

阪部 光雄（大阪バス協会）

南山 文代（個人会員）

【グループ懇話会】

電寿会 幹事（二名）

（代）吉川 隆俊（個人会員）

妹尾由明（個人会員）

電壮会 幹事（九名）

（代）猪谷 勇三（猪谷工務店）

伊貝 武臣（個人会員）

景山 績（個人会員）

川越 英二（個人会員）

青年会 幹事（三名）

（代）石田 貴志（石田エンジニアリング）

池田 雄二（大同電機製作所）

永木 祥弘（永木精機）

【同好会】

撞球部 委員（四名）

（長）村上 幸夫（個人会員）

池端 博（日本リーテック）

石塚 正和（個人会員）

富山 勝幸（個人会員）

麻雀部 委員（三名）

（長）景山 績（個人会員）

市川 克彦（個人会員）

野村 和夫（個人会員）

囲碁部 委員（四名）

（長）廣川 強士（個人会員）

竹内 建（個人会員）

村上 幸夫（個人会員）

山田 進（個人会員）

将棋部 委員（三名）

（長）井上 紘（個人会員）

井上 清志（酒井鉄工所）

上村 好行（個人会員）

俳句部 委員（二名）

（長）富山 勝幸（個人会員）

難波 正行（個人会員）

ゴルフ部 委員（五名）

（長）石田 貴志（石田エンジニアリング）

久保 恭人（服部建築事務所）

河内 正志（個人会員）

松山 三雄（マツヤマ電機）

山田 拓幸（個人会員）

写真部 委員（三名）

（長）鈴森 惇（個人会員）

玉置 喜章（個人会員）

土方 利洋（個人会員）

社交ダンス部 委員（四名）

（長）奥谷安規子（個人会員）

尾谷 昌彦（個人会員）

世瀬 義久（個人会員）

渡部 昌子（個人会員）

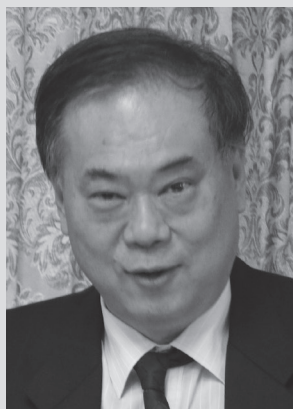
絵画部 委員（三名）

（長）北本 浩之（個人会員）

白水 稔郎（個人会員）

並木 宏徳（個人会員）

（長）〓委員長（代）〓代表幹事



桃山学院大学 法学部 教授

松村 昌廣 氏

『激動する世界情勢を読む』

松村 昌廣氏 プロフィール

略歴 1986年 関西学院大学 法学部 政治学科卒業
米オハイオ大学大学院 政治学研究科修士課程
(修士号取得)
米メリーランド大学大学院 政治学研究科博士課程
(博士号取得)
現在、桃山学院大学法学部 教授、(一社)平和・安全保障
研究所 研究委員。
この間ハーバード大学 オーリン戦略研究所 国家安全
保障学ポストドクトラルフェロー、米国防大学 国家戦
略研究所 客員研究員、ブルッキングス研究所 北東ア
ジア研究センター 招聘研究員、ヘリテージ財団 アジ
ア研究センター 客員研究員、ケイトー研究所外交政策
プログラム 客員研究員などを務める。

はじめに

今、日本国内でのウクライナや台湾に関する情報が乱れている気がします。情報の一割くらいがガセネタで、残りの九割もかなり偏ったものになっています。マスコミなどみていれば、BBCやワシントンポスト、ニューヨークタイムズなど、英語で発信される元々の情報の段階で戦争プロパガンダが多くなっていることがわかります。

現象面としては、世界で様々なこ

とが起きていますが、事の本質はアメリカの覇権が崩壊を続けていること、それが深刻化していることにあり、これがキーとなってそれに付随した現象が起きていると理解するべきです。ですから、いろいろなニュースに接しても、その現象面に惑わされず、それらがアメリカの覇権崩壊とどのように関係しているのか、というふうにみていくと、頭を混乱させずに、すつと見えてくると思います。

十九世紀はパックスブリタニカ

米国覇権の崩壊の過程

アメリカの覇権に揺らぎが出ている理由はウクライナ戦争でもコロナでもなく、実は一九七一年にニクソンショックが起きたとき、製造力をベースにしたアメリカの覇権は終わりが見えていたのです。そのままアメリカは八十年代を戦い、同時にソ連との最終決戦をにらみながら、ドイツ、日本と競争しなければならなかったのです。しかもソ連に勝利するため、アメリカは同盟国である日本、ドイツその他と妥協しなければなりません。結果としてアメリカの経済がボロボロになりました。

しかしアメリカの覇権は終わらず、九十年代に入り、金融業をベースにしたアメリカ覇権パート2が始まります。ところが二〇〇八年リーマンショックによって世界的な金融危機が起こり、その流れのままで今日にいたっています。つまりアメリカの覇権は、いつ潰れてもおかしくない状態のまま、ごまかしながら続いているのです。

アメリカの覇権が崩れていくのは、アメリカ人自身もヨーロッパ人も日本人もわかっています。ですから、それを保たせるのか、あきらめるのか。あきらめるのなら、どうやって長持ちさせるのか。今、そのつば

ぜり合いが行なわれている状況です。

冷戦が終結するまでは、ある意味、米ソの二国で賄っていた世界秩序維持のコストは、今はすべてをアメリカが賄わなければならないわけですから、アメリカにしてみれば、組み直したほうが覇権を維持するコストを軽減できるというわけです。日本の安保三文書の閣議決定もその流れの中にあり、日本よ、もつと分担してくれよというお金の話なのです。

リーマンショックによる世界的な金融危機は経済面の事象ですが、一昨年の八月のアフガニスタン撤退で、覇権崩壊の流れが、経済面でも安保面でも起きていることがはっきりしました。アメリカの覇権崩壊というところからみれば、アフガニスタン撤退はアメリカ本土からほど遠い中東での現象とみえて、本質的にはワシントン内部の内ゲバです。二〇二一年一月、アメリカの国会議事堂が襲撃されましたが、これはアフガニスタンのような辺境どころではなく、アメリカのど真ん中で起きた事件です。これをみても、アメリカの崩壊を巡る内ゲバ状態がかなり極まっていることがわかります。トランプがどうだ、バイデンがああだ、国会議事堂が襲撃されたとか、いろいろとある話もすべて、見方を変えれば早い話、アメリカの覇権をどう

するのかという内ゲバなのです。

大局から見た

世界秩序の落としどころ

覇権とは、世界秩序のあり方です。ひとつの強大な国家が世界を統一するのか、五つ六つほどの主要な列強国が世界秩序をつくるのかということとです。人類の歴史は後者を進んできましたが、過去七十年くらいでみれば、アメリカが図抜けた存在で、あとはロシア、中国、ヨーロッパ諸国があるという形でした。現状は、アメリカ覇権崩壊後の世界秩序を、このどちらでイメージするのかという内ゲバでもあるわけです。

アメリカの覇権は、崩壊するのかもしれないのではなく、崩壊していくのは明らかですが、いつどのような形で崩壊していくのか、つまり、できるだけ今の形を保たせていくのか、もしくはできるだけ早く清算して、次の段階にいくのかということが問題となってきます。

第二次世界大戦後の世界は、アメリカが非常に得をしました。そして日本もヨーロッパも含めて、アメリカの覇権に協力した国々と人々、特に権力者、利得者は、今の体制が続いてほしいと考えます。当然、今の体制をできるだけ保たせたい。しかし、アメリカにしてみれば、コス

トが大きすぎて覇権を維持できなくなっています。

第二次世界大戦後、アメリカは一国で世界のGDPの半分弱を占めていました。金保有量にいたっては六割から七割でした。今はどうかという、一番新しい統計では、アメリカは世界のGDPの二三%にまで落ちています。軍事費は四〇%超です。世界のGDPの二三%しかないにもかかわらず、軍事費は四〇%超もある。続くわけがありません。ムリヤリ続ければ経済に負担がかかります。実際、負担がかかりすぎているために、中国などに追いつかれようとしているわけです。

普通に考えれば、GDPのレベルに直接（軍事的）・間接の介入コストを合致させていかなければなりません。そして、そのためには同盟国に分担協力させようという話になります。これまでのアメリカの覇権システムの下で平和で豊かにやってきたアメリカ人、そして先進国の人たちの多くもこれを望んでいるはず

です。ところが実際は、ウクライナではブリンケン國務長官やこの問題の中心になっているヌーランド國務次官といったネオコンの人たちのイデオロギーや思い入れに引つ張られ、その望みとまったく逆のことをしています。現実主義的には軍事面での縮

す。世界は今、すでに第三次世界大戦の淵に立っているわけです。今、私たちはそういう危機に直面しているにもかかわらず、米欧は火遊びを続けているというのが現在の姿といえます。

ロシアについて

先進国首脳会議のことをG7と呼んでいます、かつてロシアを入れて、G8であった時期もありました。冷戦後、ロシアもヨーロッパを含めた西側の仲間入りをさせて、みんなで仲良くしましょう、協力し合いましようという雰囲気がつくられ、そのなかで生まれたのがG8という枠組みです。しかし、実際には、口では仲良くする、協力しようといった西側が、それとはまったく逆のことをしたのです。ロシアを西側の仲間にしてやるという意味は、アメリカにすれば、イギリスやフランスなどと同じように、アメリカの子分になるのならば、ということ

です。ロシア、つまりプーチンは当初、同輩同格として西側の仲間に入れてくれると思っていたのに、アメリカはこれを利用し、長期的にロシアを弱体化させていこうとしていました。これは国際法に反しているわけでも悪いことでもなく、国際関係とはそういうものです。自国が強けれ

小再編成をして、崩壊過程に入っているアメリカの覇権をできるだけ長持ちさせることが本来の筋であるにもかかわらず、自由と民主主義の名のもと、巨額の軍事援助をしています。逆の方向へと進んでしまっているわけです。

今の状況をやるべきことができないのは、英仏を含めたヨーロッパの国々はアメリカの従属国であり、日本はさらにその度合いが強いいため、アメリカを止められる国がないからです。縮小再編成しなければならぬのに、無理筋で拡大して間接軍事介入コストが膨れ上がっています。アメリカの債務総額はリーマンショックで最大一京円、公的債務だけでも四千兆円の負債に達しており、これ以上借金を増やしてはならないのに、またぞろ国債の上限を引き上げようとしています。ますます悪い状態へと動き、末期的な状態になっているといっても過言ではありません。できればソフトランディングをしてほしいのですが、株価をみてわかるように、このままだけいつかハードクラッシュをしてしまうというのではないかと懸念がどんどん強くなっています。

対して、典型的主権国家であるロシアや中国はアメリカの属国になどなりたくありませんから、徹底的に反抗します。実際に、アメリカを一

ぱより権力を強くし、相手国が弱ければもつと弱くし、自国の立場を強固なものにしていくのは普通です。しかしアメリカは、それをかなり露骨な形で、言葉とは裏腹の対口政策をとり続けてしまったのです。しかし先ほど触れたように、ロシアも、そして中国も、アメリカの子分になるなどとは思っていません。プーチンも当初はG8の流れに乗り、西側の半ば一員として動いてくれるような素振りをしていましたが、こうなると当然、もめごとになっていきます。

その上で今回のウクライナ侵攻をみれば、もちろん、先に殴ったロシアが悪いに決まっています。ただ、ロシアが強いから武力に訴えたというより、武力に頼らざるをえないところまで追い詰められ、万策尽きての侵攻であり、実は弱さの象徴であったと考えたほうがよいと思います。というのは、ロシアがウクライナに侵攻して世界の悪者になったのは、日本が真珠湾を攻撃して世界の悪者になったのと形としては一緒だからです。

日本が真珠湾に奇襲攻撃を仕掛けたのは、国際法上、明らかな侵略行為です。でも、日本人ならば突然の奇襲ではないことを知っています。石油は止められ、鉄くずも止められ、真綿で首をぐいぐい締めつけられ

方とし、ロシア、中国を他方とする激烈な政治的対立、駆け引きというものが見られます。

報道をみれば、ロシアや中国はとんでもない国だというふうに映りますが、これを政治的な秩序云々、国際秩序云々という観点からみれば、アメリカはかなりの無茶をしている状況なのです。

国連についても触れておかなければなりません。形の上では第二次世界大戦後の世界秩序は、国連憲章に代表されています。国連といえば安全保障理事会であり、安保理といえど拒否権を有した常任理事国の五大国、つまり、もともとは日独伊の枢軸国を戦争で倒した「聯合國」による軍事同盟国です。

世界秩序はしょっちゅう変わるものではなく、何十年、あるいは百年に一度変わるもので、大戦争の後、よくも悪くも勝利した国がつくるものです。今の秩序も、常任理事国の五大国が団結してつくったものです。今は第二次世界大戦を勝ち抜いた国々の団結が壊れかけている状態です。まだ完全に壊れてはいませんが、これが本当に壊れてしまえば、第一次世界大戦、第二次世界大戦のような世界戦争が起こります。ウクライナ戦争がエスカレートし、核兵器まで使われたとなれば、それはもう第三次世界大戦の始まりとなりま

で、最後に我慢できなくなつて真珠湾を攻撃したのです。軍事的に考えれば、まずはフィリピン辺りを攻めるべきところを、ハワイの真珠湾に飛躍したのは、まさに乾坤一擲だったわけです。

二〇一四年、アメリカはウクライナの国内情勢に手をつ込みます。ヌーランドを使ってウクライナにクーデターを起こさせ、政権を交代させた結果、親口政権だったウクライナはいきなり親欧米路線へと切り替わりました。

これを受けて、ロシアはクリミア半島に侵攻して併合し、その次はウクライナの東南部ドンバスで、親口派による自称独立政権をつくらせ、ロシアがそれをバックアップする形で八年間の民族紛争を続けました。

二〇二二年二月二十四日、ロシア軍がウクライナへの侵攻を開始します。その前の二月十六日から散発的な砲撃は起きていましたが、その数が一気に三十倍にも膨れあがり、ウクライナ側からドンバスの独立勢力側への攻撃回数が増、つまりウクライナの中央政府側が独立勢力側を挑発したのです。その背景には、後ろで手を引くアメリカの武器供与があったのですが、アメリカは絶対に自らは前に出ません。

多くの専門家はこれを受けて、ロシアはドンバス地方にロシアの覆面

兵を投入したり、バッジを取って民兵を装ったりしながらの間接的な軍事介入をする可能性が極めて高いとにらんでいました。

ところが、二月二十四日、ロシアはいきなりウクライナの三方から攻め込んだ。民族紛争のレベルでロシア系住民たちが殺された、だから国境を越えて三方から相手国に軍隊を投入したという筋は、国際法上では正当化できません。その意味ではロシアは悪です。ただしロシア側にしてみれば、そうせざるをえなくなつた。まさに乾坤一擲、真珠湾に攻め込んだ旧日本軍と同じです。それが結果的には大失敗で、ロシアにとつてみれば、いわばアメリカにハメられたのだといいたくなるでしょう。ハメた側とハメられた側という関係が、ここにみえてきます。

この実態は日本の主要なメディアでは報じられず、ある日突然、ロシアに攻め入られたウクライナは可哀想だというイメージばかりが前面に押し出されていますが、実はそういうことではありません。

一九九〇年代のユーゴスラビア紛争では、セルビア側が一方的に悪くて、ボスニアは悪くないという国際世論になり、セルビアの大統領は戦後、国際刑事裁判所で収監中に死亡しました。ところが後にボスニア側も同じようなことをしていて、要す

ており、そこに大きな問題があります。

経済面でアメリカよりも追い詰められているのはヨーロッパです。ブーチン政権を崩壊させることができれば、ヨーロッパにとっては体制変換という大きな意味があります。しかし、ロシアを制裁すると威勢のよいことをいっている西側のほうが大きな傷を受けている。それがヨーロッパの状況です。

たとえばイギリスでは、この間、物価とエネルギーの高騰を主因として二回も首相が交代し、イタリアではポピュリスト政権が誕生しました。既に、ハンガリーにも似たような大衆迎合主義の政権が存在します。これは今まで親米で歩んできたヨーロッパが、親米ではなくなってしまう変化、圧力がかかってきて、いきなり反米にまでは振れませんが、非米とでもいえる方向に振れようとしていることを意味します。そういう意味では、アメリカは今、自分たちの覇権システムを経済的な圧力をかけながら壊しているのであり、覇権崩壊の速度に自分で拍車をかけているわけです。

短期的には焼け太りをしているアメリカに対し、ロシアに制裁をして一番困っているのはヨーロッパです。エネルギーや食糧をロシアに依存している国、特にドイツはもう疲

るに、目糞鼻糞を笑うの世界であつたとわかりました。

当時、なぜそうなつたのかというと、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ側がニューヨークにある大手広告代理店ルーダー・フィン社に頼み、徹底的な世論工作をしていたからです。今回も、ウクライナ政府はアメリカの広告代理店を使い、徹底的な世論工作をしています。そういう構図があるということも見ておかなければなりません。

ユーゴスラビアにしろドンバス紛争にしろ、民族紛争にどちらがよい悪いというものはなく、もしもこちらがよくてあちらが悪いと考えてしまっている、信じ込まされているとしたら、すでにプロパガンダにやられていて証です。その意味では、日本の圧倒的多数の一般国民は今、プロパガンダに引つかかってしまっています。

今のウクライナ戦争の戦況も、ウクライナは報道されているほどには優勢ではないし、ロシアもいわれているほど負けてはいない。中間のところで動いているのではないかと思っています。

本当の事実は報道されてはいるものの、それは断片的なもので、全体的にみればどうなのかといえば、たとえばスイス陸軍の元情報将校や中東戦争に参加したアメリカの元情報

弊してしまっています。

「三十六計逃げるに如かず」で知られる中国の兵法書「三十六計」のなかに「指桑罵槐（しそうばかい）」という計略があります。桑の木を指して罵っているが、実際に罵っているのは槐（えんじゅ）である。つまり、罵っている対象と本当の標的は別であるということです。今回でいえば、アメリカのターゲットはロシアではなく、ヨーロッパなのです。ヨーロッパがアメリカよりも弱ければ、それだけアメリカの地位が安定するのですから、アメリカの覇権維持のためには、ヨーロッパが人口面でもGDP面でもアメリカ以上にならないように弱めておかねければならない。ヨーロッパだけではありません。ロシアを弱め、ウクライナをボロボロにして、何よりもヨーロッパ全体を弱めていく、つまり、すべてを弱めようとしているのです。長い目でみれば、これはアメリカの覇権システムを潰すことになるのですが、目先はアメリカの得になります。

世界に目を転ずれば、ロシアは西側から孤立している状態です。しかし、西側もグロバルサウスといいますが、発展途上国を含めた世界から孤立しています。実際、西側がロシアを制裁するという声をあげたとき、インド、中国、ブラジル等の国は同調しませんでした。むしろ、同

将校がかなり現実的な分析をしており、インターネットで公開されています。そういうものを読めば、BBCやCNNはかなりのプロパガンダを張っているなど思えてきます。

今回の戦争は、現象面ではウクライナとロシアの戦いですが、大きな意味ではアメリカとロシアの戦争です。そしてロケットを撃ち合ったりしている軍事的な様相こそ毎日報道されているところですが、先ほどから申し上げるように、全体像としてはアメリカの覇権が崩壊過程にあり、経済力が落ちていくにもかかわらず、軍事費の負担割合が増しているため、このままでは長期的には保たないという構造のなかで、今のウクライナ戦争がある、つまり、ウクライナ戦争は経済の問題なのです。

その意味で考えれば、ゼレンスキー大統領は火遊びをしているだけということになります。たくさん軍事物資をもらいながら戦っていますが、このままロシアを追い詰めていけば、ロシアは必ず核兵器を使用します。

軍事援助をしているアメリカもヨーロッパも火遊びをしているのです。バイデン大統領も核兵器を使うような事態になつてはならないといひながら、ウクライナに軍事援助を小出しに出し続けロシアを追い詰め

調しなかった国のほうが多いのです。ですから、たしかにロシアは西側から孤立していますが、同時に西側は世界から孤立しているのです。これもアメリカの覇権システムがどんどん弱まっている証です。ただしアメリカは、自分でそういうふうな事態を持つていつているのですから、天に唾しているといえます。

典型的にそれが現れているのがサウジアラビアと中国です。最近、サウジアラビアとロシアが接近しています。サウジアラビアは中国「元」やロシアの「ルーブル」で石油を売っています。このことはたいへん深刻な話です。

アメリカの世界覇権の支柱の一つは、基軸通貨となつているドルです。一九七一年に突然、アメリカは一方的にドルと金の交換をやめました。ニクソンショックです。その後、ドルは紙切れになつたのですが、それでも世界中で使われているのは、今まで使つていたし、他に代わりとなるものがないからというのが経済学者たちの定説ですが、アメリカとサウジアラビアの協定があつたからだというのが、私たちのような分析をしている専門家たちの常識です。サウジアラビアは世界最大の石油輸出国であり、埋蔵量も多い。そのサウジアラビアが「石油はドルでしか売らない」といえば、当然他の中小産

油国もそれになびき、産油国のほとんどがドルでしか石油を売らなくなっています。

なぜそういう協定が生まれたのかといえば、アメリカがサウジアラビアの軍事安全保障を一手に引き受けたからです。「サウジアラビアはアメリカが守る。だから石油はドルでしか売らな」ということが、今のアメリカの経済覇権の一番大きな柱であり、ニクソンショック以来、ドル基軸通貨制度を支えてきた一番の鍵なのです。

それが今、サウジアラビアが石油をルーブルや人民元で売っている。アメリカは自分で覇権を弱めているわけです。先般、バイデン大統領がサウジアラビアを訪ね、人民元やルーブルで石油を売らないでくれとお願いしましたが、適当にあしらわれてしまいました。サウジアラビアはもうアメリカの言葉を聞かなくなっているのです。

中国について

アメリカと真剣に対峙している中国とロシアですが、中国は、鄧小平以来、改革開放路線をとり、アメリカと仲良くやってきました。冷戦時代もソ連の敵は中国だから、敵の敵は味方になるという理屈でアメリカも中国に対してよい顔をしてきました。

なのですが、では、「共同富裕」というものは馬鹿げた政策なのかといえば、そうでもありません。わたしたちの理解とはかけ離れています。これは中国においては極めて民主的な政策なのです。素晴らしいとはいいませんが、それはそれで理にかなっていますし、中国という社会で考えれば、一定の持続性は持ちうるでしょう。

十三億人は配ってもらう立場ですから共同富裕策を歓迎しますが、富裕層は反対です。実際、大都市に住む富裕層はものすごく反発しています。少し前、ゼロコロナ政策で閉じ込められていた都市民たちが各地で一斉に反対運動を起こしました。これは共同富裕策に対する反発の、ひとつの現れです。コロナが直接のトリガーになっていますが、背後には自分が得たものを政府にもぎ取られるという不満がある。しかもその不満、反発がかなり膨れ上がっていて、コロナをきっかけとして一気に噴き出しそうになった。ゼロコロナに対する市民たちの抗議デモには、そういう一面があるわけです。

今までも中国では暴動がたくさん発生しています。ただ、それらは半ば順番に起きていて、今回のように一斉には起こらなかった。順番に起きてくるのなら、いくら暴動が発生しても大丈夫です。しかし一斉に発

たが、風向きが変わったのはトランプ前大統領のときです。米中は歌舞伎の大立ち回りのような貿易戦争をやり合い、これまでバラ色だった米中の協調関係は政治的にハッキリと終わりました。中国が高度経済成長を続けていくことを前提とした米中関係はもう存在しません。

日本が出したカネをアメリカに持つていき、それをファイナンスして中国に投資する。中国はそのサイクルをぐるぐるまわしながら、つくったものはアメリカ、日本、ヨーロッパその他に売る。そうして中国はここまで大きくなってきたのですが、この状態はもう続きません。なぜなら、アメリカも日本もヨーロッパも、これまでのように中国に進出して中国で工業製品をつくらうとはしなくなっているからです。

中国はかつては十数%もの高度経済成長を記録しました。あるいは八%の経済成長を保ち続けなければ中国では失業率が高くなり、暴動が起きるといわれ、八%の成長率を続けることが命題のようになっていきましたが、今や中国の経済成長率は二%にまで落ちています。それも中国の公式の統計ですから、実際にはマイナス成長になっている可能性も高い。

結論的にいえば、もう中国は先進国にはなれません。発展途上国が先

生したとなれば無理です。

人民解放軍の総兵力は二百万人（その内、陸軍は約百万人）です。武装警察は八十万（実働部隊五十万人）と世界最大の規模のものを持っているのですが、各地で一斉に蜂起されたとなれば抑えようがありませんし、その処理を間違えれば今の体制は確実に潰れます。果たしてそういう事態を避けられるのかどうかは中国の大きな課題です。もしも避けられないとするなら、中国は分裂すると思います。分裂して安定化するとは思えませんが、とりあえずは崩れ落ちていきます。

問題は次の段階です。日本の自衛隊、防衛省はじめ政府が今の局面でいつていることは、統一された強力な中国は大変怖い、という点です。しかし、弱く不安定で、まとまりのない中国は核兵器の管理すらできず、もつと怖い。

統一された中国に対しては、こちら軍拡をして強くなればよいだけです。ただし、今回の安保三文書では国防費を一%から二%に引き上げる、日本も軍拡するという姿勢が示されていますが、それができるのは互いに国として対峙できるという形になっているからです。「国」が崩れてバラバラに割れたとすれば、もう話のつけようがありません。相手は自分で自己管理すらできないのです。

進国へと成長していくには、若年労働者層が厚く、人口も増大し、労働力も安いという条件があり、それをうまく使いながら産業構造を変えていく。そしてそのときに社会インフラも整備し、年金などの福祉制度もつくっていく。そうしながら、やがて社会全体が老いていったとき、成熟した先進国になるといわれていますが、中国はもう、この発展経路から外れています。

たとえばひとつ挙げると、今年から中国の人口は減り始めています。今後さらなる少子化となっていくます。つまり、中国は豊かになる前に老齢化してしまふ。「中進国のワナ」にはまっているわけです。

そのなかで、少し違った様相がみえ始めており、これまでのように国内でつくりまくり、海外に売りまくって儲けるという形ができなくなりますから、当然の結果として内向きの経済になつていきます。

北京、上海のような沿岸部の大都市には一億人ほどの富裕層がいてと思いますが、残る十三億人はそうではありません。習近平は「共同富裕」という政策をとり、監視社会でガチガチに縛り、一億人の富裕層の財産を召し上げて、残る十三億人の低所得層に配ろうとしています。

長期的には、そんなやり方では全体としてより貧しくなっていくだけ

から、もつと恐ろしいことになるに決まっています。統一された強い中国の脅威だけを考えてはならない、ということが私からの警告です。弱くて不安定な中国は、それ以上に怖い存在になります。

さいごに

これまでの話を踏まえた上で、最後に日本はどうすればよいのかということに触れていくことにします。

日本は、百年ぶりに「正義の味方」の側について、岸田総理も先頭になつて旗を振っています。気持ちにはわかりますが、ロシアの現況を考えれば単純すぎるような気がします。どこかで手打ちをするとき、日本にできることがあればよいのですが、日本はアメリカの従属状態にあります。日本のリーダーも政治的な主張はなかなかできないはずですが。

ただ、ひと筋の光はあります。口ではロシアを批判しながら、日本はそれほどの制裁をしていません。元々口はそれほど大きな貿易関係国ではありませんから、制裁といってもシンボリックなものに過ぎません。サハリンの天然ガスにしても関りは続いています。表面的な主張に比べて、やっていることはかなり現実的です。ただし、日本は西側の体制からもはや離れられないという問

倶楽部だより



安全祈願祭風景

二月七日(火)十一時から屋上「宣光稲荷大明神」にて会員、倶楽部利用者および倶楽部関係者の安全を祈つて中央電気倶楽部、テナント、(株)メディサス、(株)ケービーエスおよび工事関係者約四十名が列席し安全祈願祭が実施されました。

●●●●● 本年も安全祈願祭を実施！

会員の皆様には、会員増強にご協力いただきありがとうございます。

当倶楽部の発展のためには、会員企業の皆様そして個人会員の皆様の新入会員のご紹介が何よりも大切です。

「明るく、親しみのある倶楽部」として会員皆様に倶楽部ライフを楽しんでいただき、大切な交流の場として活用いただけるよう事務局一同頑張つてまいりますので、何卒お力添えのほどよろしくお願いいたします。

ご入会希望の方には、事務局がいつでもお伺いしご説明いたしますので、紹介方よろしくお願ひいたします。

(会費・入会金)

区分	会員区分		
入会金	指定会員	1社(団体)	7万円
	個人会員	新規入会	3万円
		会員歴あり	2～5年未満 1万円
			5～10年未満 5千円
月額会費 会員一名	指定会員	一律	5,000円
		毎月払い	4,300円
	個人会員	半年払い	4,050円
		年一括払い	3,800円



(五階ホールのグランドピアノ)

が、引き続きご利用の際には手指の消毒・マスク着用のご協力をお願い申し上げます。

一〇〇年以上の歴史ある社交倶楽部、その会館の中にくつろぎに満ち、ゆつたりとした空間で、大切な会議やセミナー、講演会、展示会、ご商談、打合せに。また同窓会・OB会等の旧友との再会の場としてもぜひご利用ください。五階大ホールにはグランドピアノを備付けており、ミニコンサート会場として、そして、大スクリーンでシアター感覚のご利用とイベントにも多岐にわたりご利用頂けます。

当倶楽部は、交通の便も良く、低料金で十人程度からご利用が可能な大小二十三室の会議室とお稽古事にお使い頂けます和室三室、そして椅子席三六〇席の大ホールまでございます。(新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、現在は定員を減らしております。)

また、インターネットでのネット会議・セミナーもできます。

専門スタッフが、会場設営、また機材のご利用説明を致しておりますので、安心してご利用ください。

ご利用後の会議室の消毒の実施も継続致します。

●●●●● 会員増強にご協力を お願いいたします!!

●●●●● 会議、セミナー、ミニコンサート等に 大ホール・会議室のご利用を!!

講演録 激動する世界情勢を読む

CLUB GRAF くらぶ・ぐらふ

◎午さん会(10月7日)

『日本経済再浮上の鍵となる
財政・金融はどうあるべきか』

産経新聞社

特別記者・編集委員兼論説委員

田村 秀男氏



◎午さん会(10月14日)

『現在の紛争に対応できる
我が国の防衛のための
「情報」装備とは』

ジャーナリスト

山田 敏弘氏



題はあります。

もうひとつは、安保三文書の問題です。安保三文書の中身はよいとしても大きな問題があります。わたしたちは防衛費を1%から2%へ増額し、軍拡をしていきます。軍事支出で世界第三、四位の軍事大国になつていきます。ところが三文書では「これまでの防衛政策の延長戦で」とい、平和国家のままであるとなつていく。我々は倍増した防衛費で何をしたいのかということに触れていないのです。つまり、戦略なき軍拡です。相手からみれば、これは単なる挑発です。戦略があるなしというよりも、アメリカに迫られ、アメリカのいう通りにやりましたという体です。昨年五月に岸田首相がバイデ

ン大統領と会い、再度今年一月に両者の会談をしました。その結果としての安保三文書には今日お話ししている全体の構造がみえてきません。アメリカの覇権が崩れているなかで日本をどのように位置づけていくのかということがなく、そしてそのなかでどう動いていくのかというビジョンもなく、ただ軍拡をしたただけの内容です。

各論的には、やるべきことをやるという方針を打ち出していますから、評価できるところもありますが、全体的には危機感を感じます。米中戦争になれば、日本はその最前線国家になります。一方的にリスクを背負い込むのは日本です。アメリカは後ろで掛け声をあげ、カネと武器を

流すだけでリスクを負わない選択をするかもしれません。そうなれば、今のウクライナ戦争の姿と一緒に状況です。

ロシアと中国はたしかに怖い存在です。しかしわたしたちにとつての一番の問題はアメリカです。そのことに気付きましょうということが、今日のわたしのお話です。

(令和五年一月二十七日)

講演抄録文責在記者)

◎絵画部(水彩画)教室
二月度(一日・水曜日)の画材は、
「静物・花」でした。



次回は三月一日(水)「人物・着衣」です。

◎囲碁部 例会(二月四日)

成績

三 勝 五 段 井 垣 文 男 君
二 勝 四 段 廣 川 強 士 君

(参加者 四名)

(次回例会は三月十一日(土))

◎将棋部 例会(一月二十五日)

一月の例会は、休会致しました。

(次回例会は三月二十五日(土)指導なし)

◎俳句部

第八百四十六回 いなづま句会

俳誌「かつらぎ」主宰 森田純一郎先生指導
令和五年一月二十一日

兼 題 当季雑詠五句

選 者 吟

神饌田一隅に芹見つけけり
大寒のテレビ南国映しけり
煤逃の茶房アクリル板ばかり
万博を待つ大阪に大初日
ワクチンを打ち大寒の街に出づ

いなづま句抄

○仲の良き家族にひとつ福袋 富山 勝幸
○墨の香の馥郁として年明くる 難波 正行
○阪神忌君は焼け逝く物の中 留岡 寛
○幕跳ねてまだ残照の五日かな 渡邊 建彦
○寒燈や一人留守居の駐在所 木下 貴友
○不滅の灯燃ゆる公園阪神忌 広田 祝世
○囲はれの身の寒牡丹息づけり 出店智恵呼
○参拝の列とはべつに焚火の輪 奥村 恵子
○いつもより声張りあぐる初披露 東代 舞
○初寝覚いつも通りの起床かな 友岡 淑子
○霊泉の流れに沿ふや恵方径 前野美枝子
○鹿せんべい持つ子は鹿を恐れけり 野尻 弘輔
(○印選者選)

◎ゴルフ部

一月二十五日例会は、荒天のため中止になりました。

一月三十一日の委員会で、令和六年三月までの競技予定を決定しましたのでご案内いたします。

令和五年三月から令和六年三月競技予定

回数	月 日	競技場所
第五六〇回例会	令和五年三月二十三日(木)	茨木国際CC
第五六一回例会	四月十八日(火)	伏尾CC
第五六二回例会 (旧理事杯取替戦) チャンピオンシニ	五月十日(水)	琵琶湖CC
第五六三回例会	六月十四日(水)	大阪CC
第五六四回例会	七月五日(水)	泉南CC
第五六五回例会	八月一日(水)	茨木高原CC
第五六六回例会	九月二十一日(木)	花吉野CC
第二八回 清交社懇親競技会	十月十九日(木)	GC四条蔵
第五六七回例会	十一月十一日(火)	鳴尾CC
第五六八回例会	十二月十九日(火)	宝塚CC 旧コース
第五六九回例会	令和六年一月二十五日(木)	花屋敷CC ひろのコース
第五七〇回例会	二月十一日(水)	茨木国際CC
第五七一回例会	三月二十八日(木)	田辺CC

(注)

神饌田(しんせんてん)・・・神に供えるお米を育てる田んぼのこと、新嘗祭などの祭典にお供えされる

煤逃(すすにげ)・・・新年を迎えるために煤払をするが、その掃除の足手まといとなるのを避け、時間をつぶしに家の外に出てしまふこと(季語)

馥郁(ふくいく)・・・よい香りがただよっているさま

阪神忌(はんしんき)・・・二十八年前、一月十七日に起こった阪神淡路大震災をさす(季語)

寒牡丹(かんぼたん)・・・もともと初夏の花である牡丹の花芽をつみとつて冬に咲かせるように、薫陶いをして、寒さの中で大輪の花を咲かせる(季語)

寒燈(かんとう)・・・冬の夕暮とともに灯さされている灯のこと(季語)

初披露(はつひこう)・・・新年初めての句会(初句会)で選句用紙を集めて披露者が読みあげること(季語)

霊泉(れいせん)・・・地下から自然に湧き出て来る霊験あらたかな泉のこと(「泉」季語)

◎撞球部 例会(二月四日)

成績

優勝 上田 豊治 君
二位 雑賀 幹人 君
三位 吉川 尚美 さん
四位 大竹 一夫 君
五位 池端 博 君
(参加者 十六名)

・優勝コメント

立春開催となった今年の二月の例会、四勝一ドボンの平幕優勝で終幕。三年ぶりに例会優勝となりました。

喜んでばかりはいられない、試合開始前の心境は、アベレージ一・三の実力では七キュー十一の条件では一勝も見込めない。そこで心掛けたことは、チャンスに失敗なく継続得点を目指して競技することでした。対戦相手の上級者の方々に「チャンス残り玉」をいただき他力本願の試合ながら終わつてみれば五戦四勝に・・・。

玉を散らすのは得意技?を封印し、集める技量の習得に励みアベレージ倍増を目指したいと思います。今後のご指導をよろしく願います。

(次回例会は三月四日(土))

他 倶 楽 部 案 内

清交社の午さん講演会の

ご案内

会 場・・・ANAクラウンプラザホテル大阪
五階ガーデンルーム
時 間・・・十一時三十分～十三時三十分

三月七日(火)

講題「世界45の国と地域を取材して」
毎日放送アナウンサー

三月十四日(火)

講題「大相撲よもやま話」
日本福祉大学教授・放送ジャーナリスト
(元 NHKアナウンサー)

三月二十一日(火) 祝日休会
三月二十八日(火)

講題「未 定」
京都大学大学院医学研究科
発達小児科学教授

滝田 順子 さん

※状況により中止になる場合があります。

◆出席ご希望の方は、当倶楽部事務局
(更谷)に二日前までにお申し込み下さい。
◆会費／三、〇〇〇円(昼食代・消費税込後日精算)
前日の午後五時以降は、キャンセル料が発生します。

☆ネクタイ着用